

当院では破傷風のワクチン接種を行っています。

破傷風菌とは？

破傷風菌は「芽胞」という熱や薬剤・乾燥に耐久力が強い状態で土壌に広く分布する菌です。

動物の腸の中や糞にも存在します。傷口から侵入すると発芽・増殖し、毒素を産生します。

「嫌気性菌」といって、酸素が触れない傷口で増殖するのが特徴です。

潜伏期間は3日～21日程度です。(平均は10日)



破傷風菌は傷から侵入

さびた釘が刺さった、転んで皮膚を擦りむいた、傷があるのに砂いじりをした、動物にかまれた場合など、破傷風菌は傷口から侵入します。破傷風菌は小さな傷からでも侵入し、中には傷が見当たらないのに感染する場合があります。極めて少ない量の菌でも侵入して増殖すれば容易に発病します。

破傷風の発病

破傷風は症状があらわれると病状の悪化が速いので、傷を受けて3～21日後に症状がみられたらすぐに医療機関を受診してください。

- 食べ物をよくこぼす、飲み込みにくい
- 舌がもつれる、口が開きにくい
- 体がだるい、全身の違和感
- 首・四肢のけいれん、こわばり



破傷風の感染予防

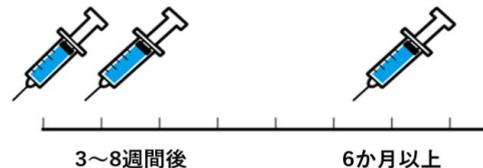
● 予防接種(沈降破傷風トキソイド「生研」)

破傷風の感染を防ぐには、なによりも予防接種が大切であり、その予防には基礎免疫をつけ、定期的な追加接種をすることが望ましいと考えられています。接種回数や接種期間など、医師の指示どおりに行わなければ免疫機構が確立しないことがあります。

基礎免疫：初回接種、その3～8週後に1回

さらに6～18ヶ月後に1回接種します(計3回)

追加接種：10年間隔で接種します。



破傷風菌ワクチンを打った方がよい方は？

- ・ **最終接種から10年以上経過している方**
- ・ **いつ破傷風ワクチンを最後に接種しているかわからない方**
- ・ **1967年(昭和42年)以前に生まれた方**： 定期接種の対象になっていません
- ・ **転倒の危険が高い方**
- ・ **園芸や災害医療などに従事される方**： 土壌汚染された怪我をしやすいため(緊急接種として使用する場合)
- ・ **壊死組織(死んだ細胞が中心の組織)が認められる怪我の場合**
- ・ **土壌・鉄さび・動物などで汚染されたの怪我の場合**



実際には「最後にいつ破傷風ワクチンをうったかわからない」という方がほとんどなので創部の状態を確認し破傷風ワクチンの接種をお勧めすることが多いです。

また創部での破傷風感染リスクが高く、最後の破傷風トキソイドから5年以上たっていれば破傷風トキソイドを1回接種したほうがよいとされています。